

「低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題」および「点検不備問題」に係る再発防止対策の実施状況・評価ほか

平成30年 12月 10日

経緯

説明内容

1

I. 低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題	P 2
1. 原因と再発防止対策	
2. 再発防止対策の実施状況・評価	
3. 今後の原子力安全文化有識者会議における報告について	
II. 点検不備問題	P 8
1. 根本原因に対する再発防止対策	
2. 再発防止対策	
(1) 原子力部門の業務運営の仕組み強化	
(2) 不適合管理プロセスの改善	
III. 原子力安全文化醸成関係	P15
1. 原子力安全文化醸成に関する再発防止対策の進捗状況	
2. 各再発防止対策の実施状況	
3. 原子力安全文化有識者委員からの意見・提言への対応	
IV. 内部監査による実施状況評価	P30
1. 点検不備再発防止対策の実施状況	
2. 低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題再発防止対策の実施状況	

I. 低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題

1. 原因と再発防止対策

本事案が発生した原因と再発防止対策は以下のとおり。

原因	再発防止対策
<p>【業務管理のしきみの問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 流量計の校正は、EAMで管理されておらず、点検計画実績管理表も未作成で管理者が管理できていなかった。 ■ 設備稼働前の確認手順及び記録の作成管理が不足していた。 	<p>【業務管理のしきみの改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> EAM管理対象としていなかった機器の点検計画管理方法の改善 固型化設備稼働前の確認プロセスの改善 業務に即した手順への見直し
<p>【業務運営の問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理者が業務管理を適切に行っていなかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・作業の進捗を確認・把握していなかった。 ・監査資料の確認ができていなかった。 	<p>【業務運営の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理者によるマネジメントの改善 内部牽制の強化につながる管理方法の改善
<p>【意識面の問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コンプライアンス(不正をしない、ルールを守る)の意識が一人ひとりにまで十分に浸透・徹底していなかった。 ■ 「報告する文化」、「常に問い合わせる姿勢」の意識が一人ひとりにまで十分に浸透・徹底していなかった。 	<p>【意識面の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事案の事例研修を実施 「地域に対し一人ひとりが約束を果たし続ける意識」をさらに向上させるための取り組み 適切な発注業務管理の推進

2. 再発防止対策の実施状況・評価

(1) 業務管理のしくみの改善

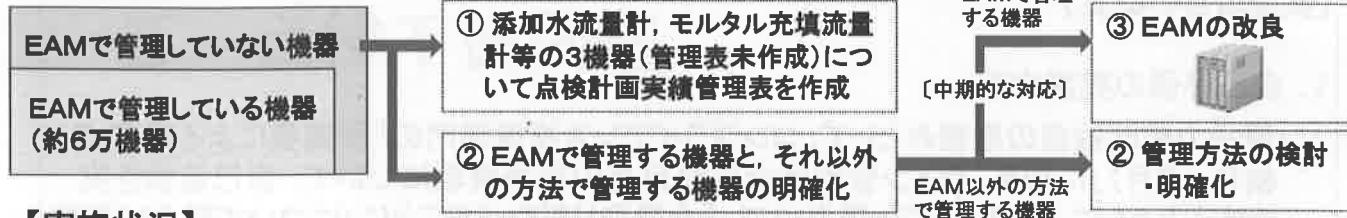
a. EAMで管理対象としていなかった機器の点検計画管理方法の改善

4

【問題点】 流量計の校正はEAM※で管理されておらず、点検計画実績管理表も未作成であったことから、担当者任せとなり、管理者が管理できていなかった。

※EAM(Enterprise Asset Management):原子力発電所の設備に対する保全計画・実施・結果に係る情報を統合的に管理するシステム

【対策の概要】



【実施状況】

実施項目	スケジュール		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
①点検計画実績管理表の作成(3機器)			■ 10/26実施済					
②EAMで管理する機器の明確化			■ 1/22機器抽出・整理済					
EAM以外で管理する機器の管理方法の検討			■ 2/26EAM以外の管理方法・整理済					
③EAMの改良 [中期的な対応]					■ システム改良完了		■ 4/1運用開始	
④有効性評価			■ 3/31有効性評価済	■ 3/31有効性評価済	■ 12/31有効性評価済	■ 3/末 有効性評価済		

(2) 業務運営の改善

a. 管理者によるマネジメントの改善 (1/2)

5

【問題点】

管理者が業務管理を適切に行っていなかった
・作業の進捗を管理、把握していなかった

【対策の概要】

- ①管理者業務に関する教育・研修
 - * 進捗管理、業務監督、コミュニケーション等に関する研修の実施
- ②管理者の業務に係る自己評価(定期的な業務点検)

【実施状況】

実施項目	スケジュール		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
①管理者業務に関する教育・研修	研修実施(11/11)完了		目標設定(4/18~6/3)完了		新任ライン管理者研修(3/13,14)完了		ライン管理者研修(6月~10月)完了	
		新任ライン管理者研修実施(3/7)完了			中間振り返り(10/3~11/11)完了		結果振り返りと目標設定(4/28~6/9)完了	中間振り返り(10/2~11/17)完了
②管理者の業務に係る自己評価	自己評価実施(11/27)完了				自己評価(12/16~1/18)完了		自己評価(12/19~1/19)完了	
			自己評価(7/1~8/12)完了			自己評価(5/29~7/11)完了		
③有効性評価(毎年年度末実施)		■ 3/31有効性評価済			■ 3/22有効性評価済		■ 3/末 有効性評価済	

(2) 業務運営の改善

a. 管理者によるマネジメントの改善 (2/2)

6

【実施項目】 管理者の責務に係る自己評価

【目的】 各職場における適正な業務遂行を確保するとともに、不適切事案の兆候や早期発見や未然防止につなげる。

【実施項目の概要】

1. 自己評価の実施内容

- ・原子力部門独自の取組みとして、コンプライアンス推進部門の「所属長による業務点検(5~7月)」に加え、ライン管理者全員が自身の業務管理について、自己点検を実施するとともに、各グループ・課単位で、「今後取り組むべきことに」について話し合いを実施した。(平成29年12月～平成30年1月 実施済)
- ・なお、点検項目は所属長による業務点検と同様に、全社の点検項目に加え、電源事業本部独自の点検項目やLLW不適切事案を踏まえた原子力部門独自の点検項目により実施した。

2. 有効性評価

- ・各ライン管理者からの意見等から、自らの業務を振り返る良い機会になるとともに、ライン管理者同士で悩みや様々な取組み内容について情報共有することで、風通しの良い職場環境づくりやコミュニケーションの向上を図っていく上での参考となったとあり、自己評価の取組みは有効であることが確認できた。

7

3. 今後の原子力安全文化有識者会議における報告について

○対外的な報告

低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題の再発防止対策については、原子力規制庁、自治体(島根県、松江市)から、「日常業務の中で定着化していることを確認した。」との評価を得て、日常的な報告へ移行した。

《原子力規制庁》
再発防止対策は、日常業務の中で継続的にPDCAが廻る状態であることを確認。
(H30年2～3月 H29年度 第4回保安検査)

原子力規制庁による保安検査での改善措置の状況確認の終了

《自治体(島根県・松江市)》
全ての再発防止対策が日常業務として定着化していることを確認。
(H30年6月 第8回 自治体立入調査)

再発防止対策に係る実施状況定期報告の終了
(「意識面の改善」については引き続き報告)

○今後の原子力安全文化有識者会議への報告

再発防止対策の実施状況報告は、今回をもって終了とする。

なお、「意識面の改善」に係る再発防止対策については、点検不備問題に係る原子力安全文化醸成関係の再発防止対策に併せ、報告を継続する。

○当社の社内における取り扱い

日常業務の仕組みの中で問題や改善事項を把握し、継続してPDCAを廻す。

II. 点検不備問題

1. 根本原因に対する再発防止対策

9

○ 原子力部門の業務運営の仕組み強化

国の検査制度変更など、規制要求等の状況変化に速やかに対応し、適切に管理できる仕組みを強化する。

〔主要施策〕

1. 原子力部門戦略会議の設置
2. 原子力安全情報検討会の設置
3. 部制の導入

○ 不適合管理プロセスの改善

不適合管理が適切、確実に行われ、また不適合の判断が限られた箇所で決定されること等がないよう、不適合管理プロセスを改善する。

〔主要施策〕

1. 不適合判定検討会の設置
2. 不適合管理を専任で行う担当の設置
3. 不適合管理の必要性や基準に関する教育の実施

○ 原子力安全文化醸成活動の推進

経営における原子力の重要性や地域社会の視点に立った安全文化の大切さを全社（関係会社・協力会社を含む）で醸成する活動を推進する。

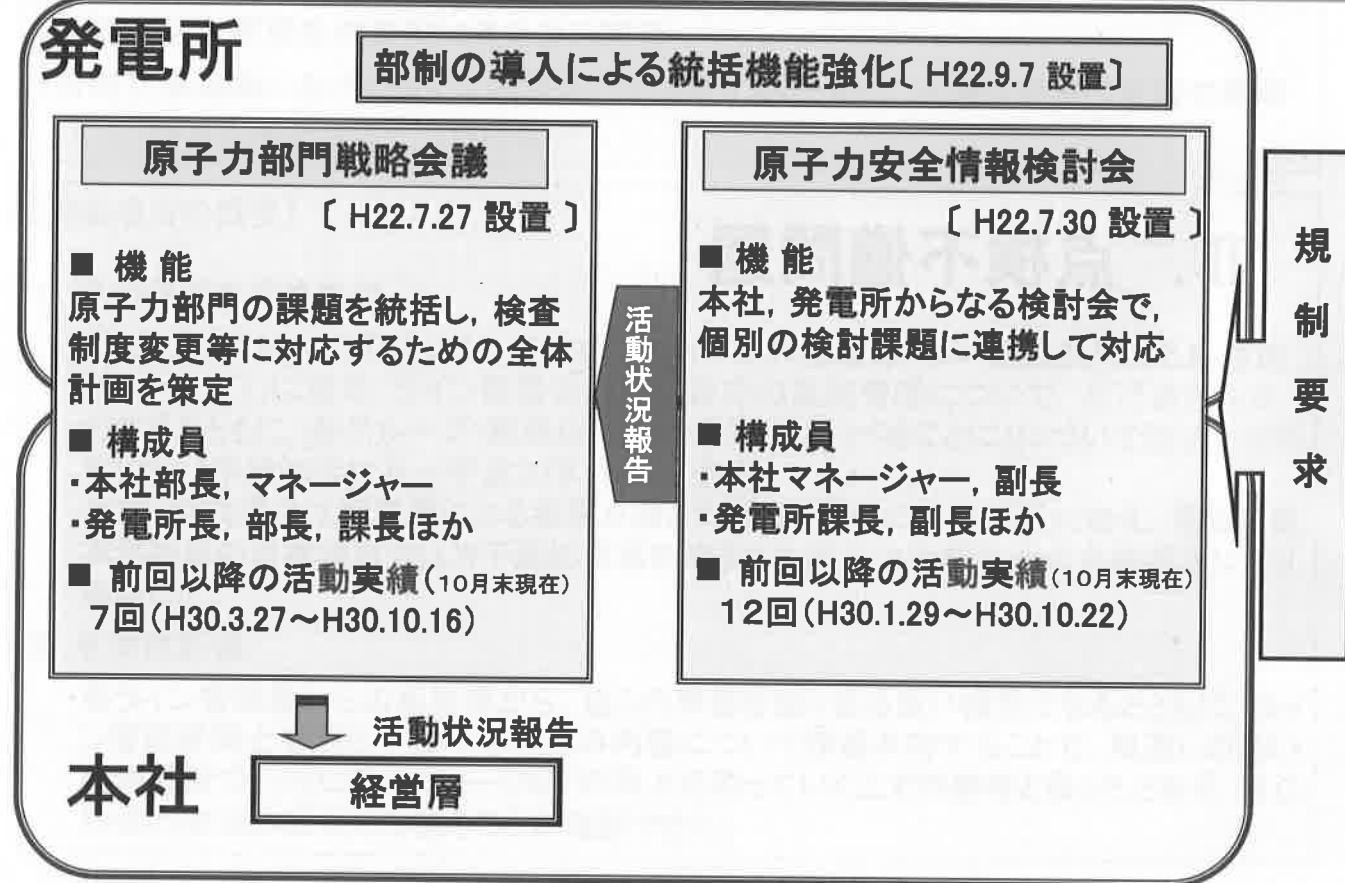
〔主要施策〕

1. 原子力強化プロジェクトを主体とした安全文化醸成活動の推進
2. 原子力安全文化有識者会議の提言を踏まえた安全文化醸成施策の検討
3. 原子力安全文化の日の制定

2. 再発防止対策

(1) 原子力部門の業務運営の仕組み強化 (1/2)

10



2. 再発防止対策

(1) 原子力部門の業務運営の仕組み強化 (2/2)

11

原子力部門戦略会議での審議内容

- 点検不備問題およびLLW流量計問題に係る再発防止アクションプランの進捗状況、有効性評価
- 平成30年度原子力部門教育訓練方針
- 原子力部門戦略会議各WG等の活動状況
- 検査制度見直しに係る検討状況
- パフォーマンス指標(PI)検討状況
- 各事故調査委員会提言他への対応状況 他

原子力安全情報検討会での審議内容(原子力部門戦略会議へ報告)

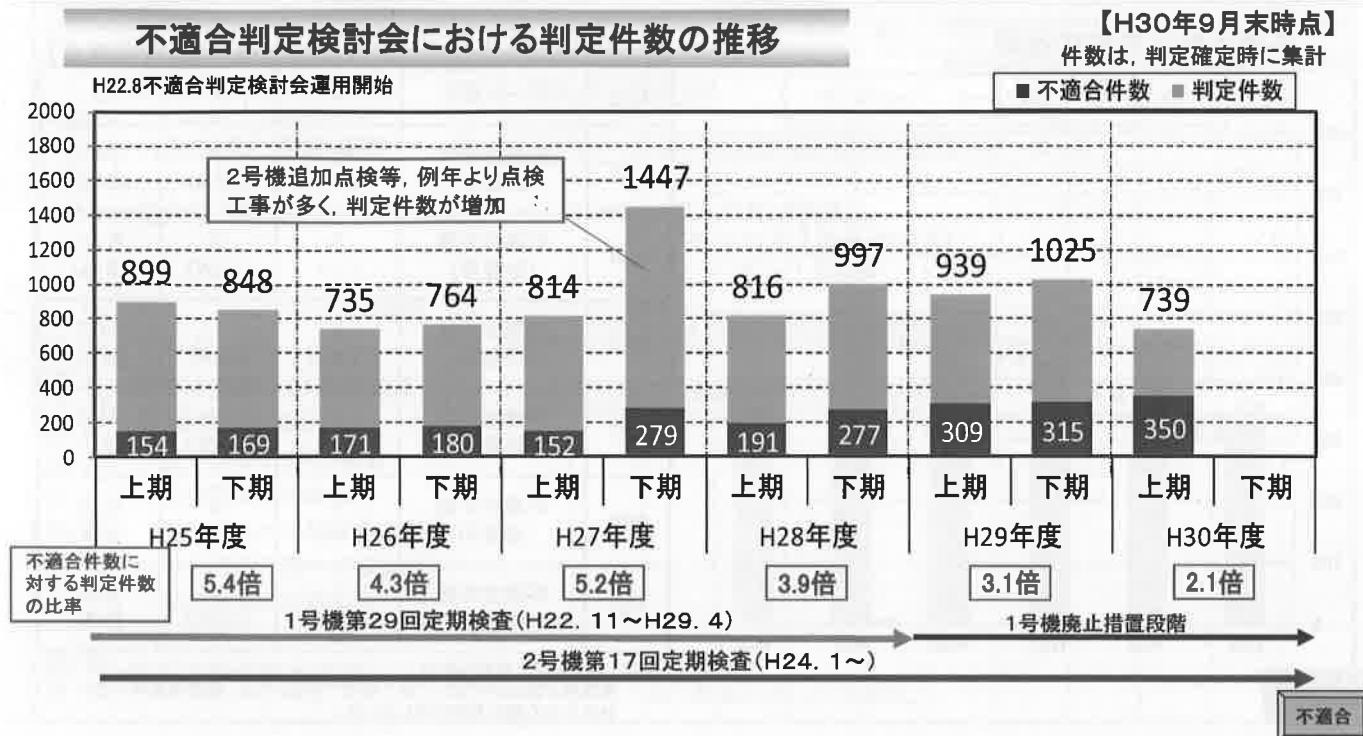
- 製品の不適切事案(日本ガイシ、日立化成 他)について
- 原子力安全情報の処理状況の確認について 他

2. 再発防止対策

(2) 不適合管理プロセスの改善(運用状況)

12

- 不適合が疑われる案件がコンスタントに不適合判定検討会で判定されており、不適合管理プロセスは適切に運用されていると評価。



2. 再発防止対策

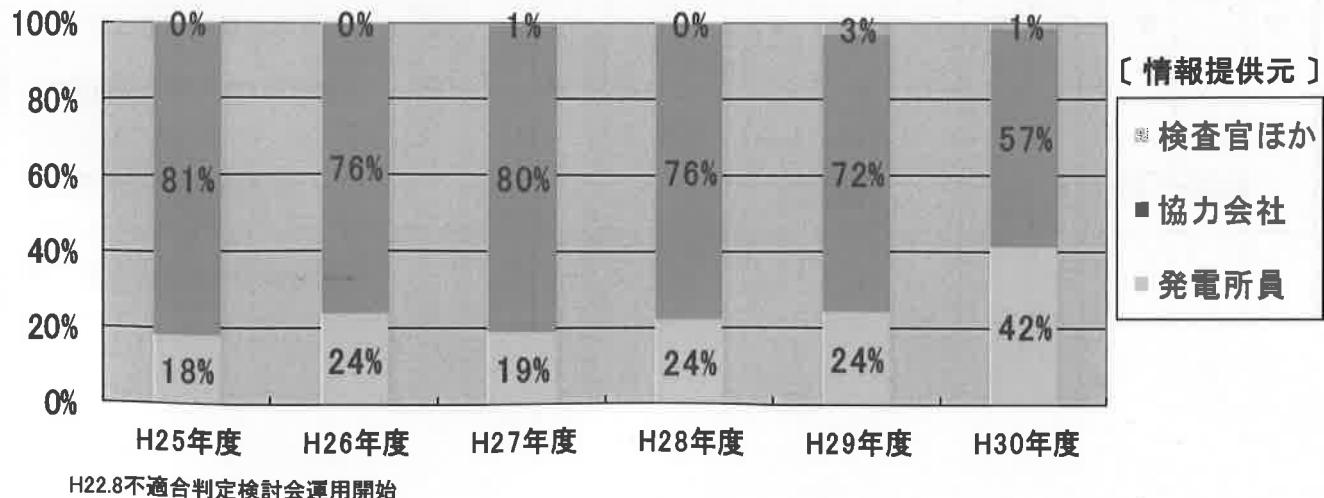
(2) 不適合管理プロセスの改善(情報提供元)

13

- 不適合判定検討会への不具合情報は、協力会社からの報告多くの割合を占めており、協力会社においても、不具合情報の報告の仕組みが定着してきている。

不適合判定検討会への情報提供元

【H30年9月末時点】

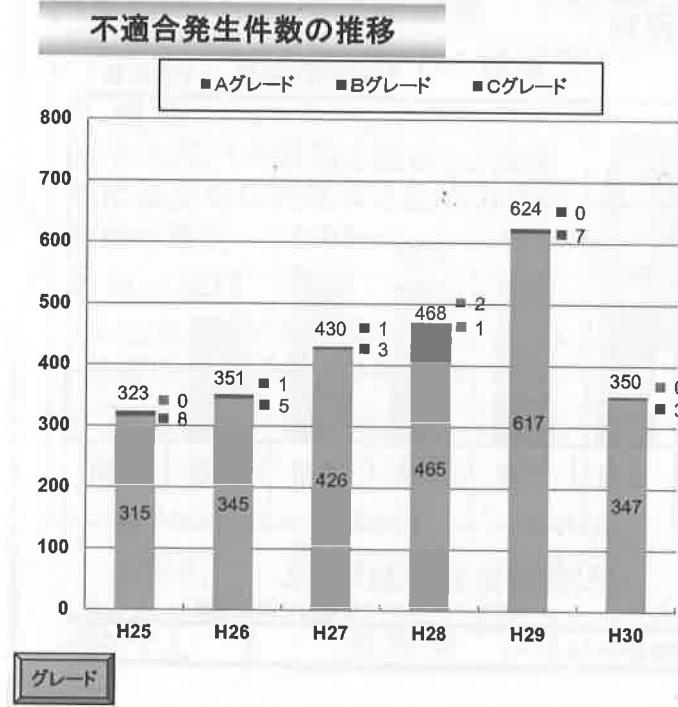


2. 再発防止対策

(2) 不適合管理プロセスの改善(発生・処置状況)

14

- 不適合件数は、近年、徐々に増加しているが、作業件数も増加傾向にあることから、問題はなく、重要な不適合(A, Bグレード)の発生は少ない状況。
- 処置状況については、発生した不適合に対し、速やかに処置を実施している。



不適合処置状況
【H30年9月末時点】

年度	データ項目	A	B	C
H30	不適合件数 (処置率)	0 (-)	3 (100%)	347 (64%)
H29	不適合件数 (処置率)	0 (-)	7 (100%)	617 (81%)
H28	不適合件数 (処置率)	2 (100%)	1 (100%)	465 (96%)
H27	不適合件数 (処置率)	1 (100%)	3 (100%)	426 (96%)
H26	不適合件数 (処置率)	1 (100%)	5 (100%)	345 (99%)
H25	不適合件数 (処置率)	0 (-)	8 (100%)	315 (99%)

(注1)処置未完了の主な理由:
発電所が運転中でないと完了確認できないもの、新規制基準への対応のため検討期間を要している。

15

III. 原子力安全文化醸成関係

1. 原子力安全文化醸成に関する再発防止対策の進捗状況

(1/2)

- 原子力安全文化醸成に関する再発防止対策は、平成30年度も、有識者会議での提言を踏まえ実施段階で工夫しながら、以下の施策を計画通り実施中。

	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
風化防止	・職場話し合い研修	(18)	話し合い研修						事例研修				
	・行動基準の策定・実践	(20)	振り返り	「行動基準」の策定・実践				振り返り					
	・転入者・新入社員に対する研修			▼4/16 新入社員(事務系) ▼6/25 新入社員(技術系) ▼7/11 転入者							▽転入者		
地域との約束の向上を果たし	・コンプライアンス行動基準の実践	(21)	振り返り	「コンプライアンス行動基準」実践				振り返り					
	・お客さま視点の価値観を認識する機会拡大	(22)	振り返り										
	・見学会等の対応・同席												
	・定例訪問への参加												
	・地元行事への積極参加												
	・社会貢献活動への参加												
	・地元意見の職場共有												
共有社	原子力安全文化の日	(24)		▼6/1 社長メッセージ発信等									

1. 原子力安全文化醸成に関する再発防止対策の進捗状況

(2/2) (29)へ (17)

	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発注業務管理	適切な発注業務に係る教育 請負者に対する要請				▼フォロー状況確認		▼フォロー状況確認		教育 (事例研修と同調実施)				
	原子力部門が取り組んでいる 「原子力安全文化醸成計画」の各施策				▼5/11	▼6/25	▼8/9	▼9/6		▼フォロー状況確認			
	・役員と発電所員の意見交換 ・安全文化講演会(研修会)	(25)							▽	▽	▽	▽	
	・安全文化講演会(研修会)	(26)						▼9/21					
	有効性評価・次年度計画						中間評価		有効性評価・次年度計画				
	原子力安全文化有識者会議								▽	▽			

2. 各再発防止対策の実施状況

a. 職場話し合い研修

(1/2)

18

- 「報告する文化」、「常に問いかける姿勢」の大切さを再確認し、現状に問題はないかを常に考えていくきっかけとすることを目的に、他社で発生した不適正事例を題材として話し合い研修を実施した。

実施期間	平成30年4月2日～6月27日	
実施概要	<p>➤ 副長以下の担当単位で実施。(72グループ)</p> <p>➤ 神戸製鋼所、日産自動車、JR西日本で発生した不適正事例の原因や再発防止対策等を読んだうえで、次の設問について、各メンバーが自分の意見を発表し、意見交換を行った。</p> <p>設問：新規制基準適合性審査の進展により業務がますます繁忙となることが予想される中、問題を起こさない(起こさせない)ため、個人として、職場としてどう取り組んでいくべきよいか</p>	
テーマに対する主な報告内容	<p>«個人»</p> <ul style="list-style-type: none">■ 疑問点があれば、自分に都合の良い解釈は行わず、上司・メンバーに相談し、客観的な判断を求める。■ 個人として、ルールを厳守することはもちろんのこと、外からの目線、物差しを常に意識し、業務を進める。 <p>«職場»</p> <ul style="list-style-type: none">■ 困り事等を相談しやすい職場とするため普段からの相互コミュニケーションを心がける。■ 個人に業務が集中しないように配慮するとともに、個人の能力や性格も考慮した分担とする。■ メンバーの様子の変化に早めに気づけるよう、周囲に気を配れる職場とする。	

2. 各再発防止対策の実施状況

a. 職場話し合い研修

(2/2) 

19

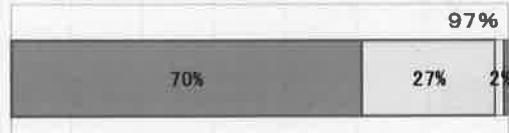
アンケート結果

【設問】職場話し合い研修は、「報告する文化」、「常に問いかける姿勢」の大切さを再確認し、現状に問題はないかを考えるきっかけとなりましたか。

■「きっかけになった」という意見（「そう思う」「ややそう思う」）が全体の97%

N=515 [回答率: 97%]

■ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そう思わない



「きっかけになった」主な理由(回答数 318人)

- 他社の不適切事象を他山の石とし、自分たちも同様なことを起こさない意識付けができる。
- 担当内の意見を聞くことにより、普段気づかない互いの考え方を知り、今後の業務の精度や効率の向上に生かせる。
- 職場話し合い研修があることで、改めて過去の事象や教訓を再認識することができ、風化防止に役立っている。
- ルールを守る、お客様目線からの判断の必要性等について、再確認することができた。
- 日頃から取り組んでいるが、改めて話し合い等の形で考えることでより意識して取り組むことができる。

「きっかけにならなかった」主な理由(回答数 13人)

- 他社の不適切事象の内容(原因等)と「報告する文化」や「常に問いかける姿勢」との関連性が理解しにくい。
- 職場内に「報告」「問い合わせ」について十分な意識付けができておらず、特段のきっかけにはつながらなかった。

■ 設問に対し、「きっかけとなった」と肯定的な回答した割合は97%となり、非常に高い支持を得た。職場話し合い研修の再発防止対策としての評価は有効であったと判断できる。

2. 各再発防止対策の実施状況

b. グループ行動基準の策定・実践

20

戻る

- 所員一人ひとりが自覚と責任を持って業務に取り組んでいくことの明確化と、取り組みに対する意識の高揚および担当内的一体感醸成を図ることを目的に、平成30年度のグループ行動基準を策定し、実践している。

- 実施概要
- 平成29年度の実施状況を踏まえ、平成30年度のグループ行動基準を策定し、実践を開始。
〔策定期間：平成30年4月2日～5月28日〕
 - 「原子力安全文化の日」の発電所行事の中で代表1グループの行動基準を発表。
 - グループの行動基準を発電所1階ロビーに掲示するとともに、OAパソコン起動時の画面に表示。
 - 行動基準を記載する携行用カードを全所員へ配布し、各自携行。



グループ行動基準発表
(「原子力安全文化の日」行事)

《平成30年度グループ行動基準[一例]》

- 常に問いかける姿勢をもち、地域・社会の皆様の視点に立って業務にあたろう。
- 前例にとらわれず視野を広くもち、業務に取り組みます！！
- 問題点は常に情報共有。お客さま視点で考え、みんなで解決しよう。
- 仲間のコミュニケーションを大事にして、報連相を確実に行います。
- 判断に迷う場合は、お客さまの視点を意識した行動を行います。
- 広くお客さまへの訪問と対話を行い積極的な情報発信に努めます。



発電所構内に掲示

2. 各再発防止対策の実施状況

c. コンプライアンスに係る行動基準の振り返り

21

戻る

- 「コンプライアンスに係る行動基準」について、振り返りを実施した。

実施期間	平成30年4月2日～6月25日	
実施概要	➤ 各職場において、コンプライアンス意識高揚のため策定した「コンプライアンス行動基準」を常に意識し、業務に取り組む姿勢に活かせているかについて話し合いにより振り返りを実施。	
振り返り結果の主な内容	行動基準	振り返り結果
	<ul style="list-style-type: none">■ 問題点は速やかに情報共有し、ひとりで悩まずチームとして解決しよう！■ 困ったときはまず相談！ 適切な手順で行動します。■ 言い出しやすい職場のために、私たちは周囲に気を配り、相談しやすい職場づくりに努めます。■ お互いに業務の進捗状況について気軽に報告・相談しよう。■ お客さま目線に立ち、ルール・手順に照らし業務に取り組もう！	<ul style="list-style-type: none">■ 小さなことでも問題提起し、一人で考えて結論を出さないようにした。■ 困った時や迷った時は、個人で判断せず、上司や主管箇所に相談・確認して進めた。■ 時には雑談をして話しやすい雰囲気をつくるように努めたり、相手の意向を聞くよう心掛け、話しやすい雰囲気づくりに努めた。■ 業務を進めるうえで、意見や思いを相互に伝えることで、報告、相談がしやすい環境作りに心掛けた。■ 地域行事に参加するなどして、発電所をどう見られているかということを、お客さまとの会話を通じて感じることができた。

2. 各再発防止対策の実施状況

d. お客さま視点の価値観を認識する機会の拡大(1/2)

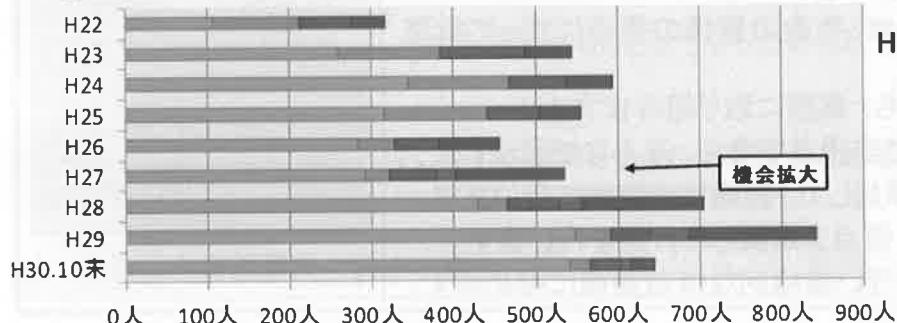
- 1人1件以上の参加を目標とし、継続した取組みを実施している。
〔平成29年度実績は全員参加〕

実施状況(参加人数)

〔単位:人〕

施策名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30(10月末)
地元行事への参加	106	259	345	315	282	291	429	547	541
定例訪問等への同行	107	125	123	126	46	30	36	44	25
見学会等の対応・同席	見学会	63	104	70	64	54	56	64	48
	社外会議等	—	—	—	—	—	26	28	12
社会貢献活動への参加	41	56	56	50	73	132	147	154	28
合 計	317	544	594	555	455	535	704	842	644

■地元行事 ■定例訪問 ■見学会 ■社外会議等 ■社会貢献活動



H30年10月末現在の参加率※：87%
(H29年10月末実績 85%)

※参加率

$$= \frac{\text{1行事以上参加者数(463人)}}{\text{H30年4月1日在籍者数(535人)}}$$

2. 各再発防止対策の実施状況

d. お客さま視点の価値観を認識する機会の拡大(2/2)

- 参加者アンケート(定例訪問への同行、見学会等の対応・同席、社外会議の傍聴等)では、ほとんどの者が「地域とのかかわりを意識することにつながった」と回答している。また、いただいたご意見や参加時の感想などについても職場内で共有化を図っている。

実施施策	主な感想
定例訪問への同行	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の方の意見を直に聞くことができ良い機会だったと感じた。この活動を通して、地域の方の信頼を裏切ることが無いよう、コンプライアンス最優先で業務を実施していくことが大切だと感じた。 ■ 私たちの仕事全てが最終的にお客さまとの信頼関係につながると、この訪問活動で経験させていただいた。今回の訪問をきっかけに、今後の業務の意識に「お客さま目線」を取り入れていこうと思う。
見学会への同席	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今回の活動で自分の業務をきっちりこなすことが地域の方の安心につながることを再認識することができた。 ■ 原子力に対する理解の前提として、原子力設備、運用、およびそこで働く社員を信頼していただくことが不可欠であることから、引き続き、地域の方々に信頼いただけるよう、お客さま視点の価値観を意識し業務に取り組んでいきたい。
社外会議等の傍聴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の方の厳しいご意見等を直接聞く機会を持てたことは良い経験になった。 ■ これまでにお客さまを意識すること少なかったが、業務の先には多くのお客さまの生活が関わっていることを意識し、信頼を獲得できるよう邁進したい。 ■ 住民説明会の受付としての参加であったが、中国電力社員として直接住民の方の前に立つ経験は身の引き締まる感じであった。

2. 各再発防止対策の実施状況

e. 平成30年度原子力安全文化の日

(1/2)

24

- 6月3日※の「原子力安全文化の日」に、点検不備の反省と教訓を決して風化させることなく、安全文化の大切さを全社員および関係・協力会社で再確認するための行事を実施した。

※H30年度は、6月3日(日)が休日にあたるため、6月1日(金)に行事を実施。

平成30年度 実施事項	全社行事	全社行事に加えて発電所で実施した行事
	▶ 社長メッセージ発信 ▶ 安全文化意識の全社共有	▶ 社長訓話 ▶ 風化防止モニュメント「誓いの鐘」鐘鳴 ▶ グループ行動基準、コンプライアンス行動基準発表 ▶ 「誓いの言葉」唱和

《発電所行事》



【誓いの言葉】 安全と品質の確保を最優先に、業務の確実な遂行とわかりやすい情報発信に努め、安心いただける発電所にすることを誓います。

2. 各再発防止対策の実施状況

e. 平成30年度原子力安全文化の日

(2/2)

25

原子力安全文化の日 社長訓話要旨

- ▶ 平成22年の点検不備問題の発生以降、全社をあげて再発防止対策に取り組んでいた中、平成27年6月、低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題が判明し、地域の皆さまからの信頼を損ね、多くの関係者の皆さまへも多大なご心配をお掛けしました。
- ▶ 今後二度と不正を起こさない、起こさせないためには、これらの問題で得た教訓を風化させることなく将来にわたって継承していく必要があります。
- ▶ 自由化による競争がますます激化し、厳しい経営環境の中、当社の抜本的な経営基盤の回復・経営の安定化には原子力の稼働が不可欠です。原子力の稼働に向け、皆さんには、安全対策、審査への対応、理解活動など、引き続き、万全の対応をお願いします。
- ▶ 原子力が稼働するための原動力は「地域の皆さまが当社を信頼してくださること」です。社員一人ひとりが、日々誠実に仕事に取り組むことが信頼を得ることにつながるということを肝に銘じ、それぞれの業務にあたってください。みなさんの明るく元気なあいさつと、はつらつとした仕事ぶりを期待しています。

2. 各再発防止対策の実施状況

f. 役員と発電所員との意見交換

(1/2)

26

■ 役員と発電所員がお互いの思いを直接伝え合うことにより、コミュニケーションの充実を図り、業務をよりよいものにしていくため、役員と発電所員の意見交換を実施している。

【テーマ】	中国電力で働く「ほこり」の回復に向けた取り組みについて、職場の状況と今後の課題(第1回、第2回共通)
第1回 (5/9) 発電所課長 ↔副社長	<p>【主な発電所員意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・若い人に対して自分の業務の位置付けを正しく理解させ、原子力安全に日々貢献していることの意識付けに心掛けている。・今後の審査対応で仕事が増えるのではと不安に思っている社員が多く、審査の状況を見ながら適切にフォローしていきたい。 <p>【主な役員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none">・課題や問題があってもそこから逃げ出さず、技術等が身につくチャンスと捉え楽しく進めるなど色々な発想も浮かんでくる。課長の皆さんのがそういった姿勢で仕事に取り組むことで職場全体の活気にもつながる。
第2回 (6/25) 発電所副長 ↔顧問	<p>【主な発電所員意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の仕事が社会にどれだけ役に立っているかを理解できれば「やりがい」にもつながると思うので、それをできるだけイメージしやすい形で伝えるよう心掛けている。・「ほこり」は個人の気の持ち方によるものが大きいと思う。業務進捗状況の管理で適宜フォローするなど、上司としてモチベーション向上に努めている。 <p>【主な役員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none">・若い人と積極的にコミュニケーションを取り、仕事に興味を持ってもらえるような形の指導に取り組んで欲しい。人を指導するには、自分がその何倍も知識がないとできないこと。このため、その分自分自身を高めることにもつながる。

2. 各再発防止対策の実施状況

f. 役員と発電所員との意見交換

(2/2)

27

第3回 (8/9) 発電所部長 以上 ↔副社長	<p>【テーマ】フリーディスカッション形式で実施</p> <p>【主な発電所員意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・「ほこり」に対する評価結果が低下傾向にあったことを受け、昨年度若手社員との意見交換を行ったが、再稼働に向け前向きな意見が多く聞かれた。・不適合判定検討会の状況を見ると、以前に比べて自ら不適合として報告する文化は浸透してきたと感じている。 <p>【主な役員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none">・人が行うことなのでミスを「ゼロ」にすることは難しい。ミスを起こしたことが正しく報告され、是正する仕組みが機能することが大切である。・管理する側と現場で作業する側とのコミュニケーションが大切。何でも相談できる関係をそれぞれの分野で構築し、一緒に考える環境作りに引き続き取り組んで欲しい。
第4回 (9/6) H27年度 入社社員 ↔社長	<p>【テーマ】仕事に対する思いについて</p> <p>【主な発電所員意見】</p> <ul style="list-style-type: none">・トラブル時の対応等で自分の考えを副長に伝え、その意見を聞き入れられた時には嬉しく感じた。新しい業務にも積極的に取り組み、色々な知識を身に付けたい。・発電所を運転した経験がないので、新入社員に説明する時に苦労しているし、実際に運転した時に適切な対応ができるか不安に感じている。 <p>【主な役員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none">・入社4年目で後輩への指導を行う立場にもなり、その指導を通じて自分自身の知識向上を図っている等色々な話を聞かせてもらった。皆が楽しく仕事をしている様子も伺え、頼もしさを感じた。・仕事のあり方や自分の生き様についても思い描きながら、自分が今どのような能力を身に付ける必要があるかを常に考え、業務に取り組んで欲しい。皆の成長を期待する。

2. 各再発防止対策の実施状況

g. 安全文化講演会

28

戻る

- 原子力安全文化醸成活動の一環として、安全文化醸成のあるべき姿に向け、「エクセレンス(より高み)を目指す活動」について理解を深めることを目的に講演会を実施した。

実施概要	講演概要 演題「エクセレンスを目指す意識の醸成」	<p>▶「事故と文化」について リスクの存在を前提とし、リスクをコントロールして許容範囲内に収めることによって「安全」が得られる。</p> <p>▶「Focus on safety」について 安全文化は「心掛け」ではなく「行動」である。日常のリスクを低減する行動を考えることにより、その成果が各社が定める望ましい姿へ繋がる。</p> <p>▶「安全文化再考」について 現状の習慣をアセスメントし、その問題や課題に関してリスクを低減する「行動」が安全を促進し文化を醸成する。</p>	 <p>【講演会風景】</p>														
	講 師	一般社団法人 原子力安全推進協会部長 前田典幸 様															
	開催日・場所	平成30年9月21日(金) 14:30 ~ 16:20 島根原子力発電所															
	参加者数	204名 (関係会社・協力会社を含む)															
アンケート結果等	<p>■ 「職場での安全文化の醸成に参考となる内容だったか」という設問に対し、「参考となつた」、「やや参考となつた」という意見が全体の97%</p> <table border="1"> <tr> <td>■大変参考になつた</td> <td>□やや参考になつた</td> <td>N=200</td> </tr> <tr> <td>■あまり参考にならなかつた</td> <td>■参考にならなかつた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>59%</td> <td>38%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>40%</td> <td>60%</td> <td>80%</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>[意見等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 安全文化を変えていくには、行動(習慣)から変えていく必要があると感じた。 ■ 今までの認識・考え方方が変わるような講演会で、とても興味深く聴講できた。 		■大変参考になつた	□やや参考になつた	N=200	■あまり参考にならなかつた	■参考にならなかつた		59%	38%		0%	20%	40%	60%	80%	100%
■大変参考になつた	□やや参考になつた	N=200															
■あまり参考にならなかつた	■参考にならなかつた																
59%	38%																
0%	20%	40%	60%	80%	100%												

3. 原子力安全文化有識者委員からの意見・提言への対応

29

- 前回、委員からいただいた提言については、以下のとおり対応している。

【再発防止対策に関するもの】

意見・提言	対 応
<p>■ 再発防止対策について、細分化し、工程表を示しながら真摯に取り組んでおり、繰り返し丁寧に行っていると思う。</p> <p>■ 低レベル放射性廃棄物に係る問題について、これまで丁寧に行ってきているが、今後同様なことが起こる可能性はゼロではない。今後も丁寧に原子力安全文化の醸成への努力を継続してもらいたい。</p>	<p>■ 引き続き社員一人ひとりに安全文化が浸透するよう、職場話し合い研修のテーマを工夫して、参加者一人ひとりに考えさせる研修とするなど、実施段階での工夫を行いながら再発防止対策を着実に実施していく。</p>
<p>■ PDCAを回しながら、仕事に対するチャレンジ・改善を行うためには、皆が思いを一つにして一丸となって取り組んでいかなければならない。そのためには、「常に問いかける姿勢」に関するアンケートの回答の「そう思う」ができるだけ多くなるようにしていただきたい。</p>	<p>■ 今年度の職場話し合い研修では、「常に問いかける姿勢」の大切さを再認識することをテーマの一つとして実施しており、引き続き「常に問いかける姿勢」の意識向上に資する施策を工夫しながら実施する。</p> <p>なお、アンケートの経年推移では、「そう思う」の回答率は上昇傾向にある。</p>
	参考へ

IV. 内部監査による実施状況評価

1. 点検不備再発防止対策の実施状況

監査の結果、再発防止対策を適切に実施していると評価する。

対象箇所	電源事業本部(原子力品質保証、原子力管理)、原子力強化プロジェクト、島根原子力発電所(品質保証部、技術部、保修部)			
監査項目	AP1:直接原因に係る対策 AP3:不適合管理プロセスの改善 AP5:点検計画表に関する取り組み	AP2:原子力部門の業務運営の仕組み強化 AP4:原子力安全文化醸成活動の推進		
確認日	平成30年 4月9日、4月12日、6月25～29日、8月6～9日			
確認結果	<p>【平成29年度の実施状況】 再発防止対策について、手順書・AP等に基づき確実に実施しており、定期的な有効性評価も適切に実施していることを確認した。</p> <p>【平成30年度上期の実施状況】 上期監査の範囲内において、再発防止対策について、手順書・AP等に基づき確実に実施していることを確認した。</p>			

2. 低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題 再発防止対策の実施状況

(32)

監査の結果、再発防止対策を適切に実施していると評価する。

対象箇所	電源事業本部(原子力品質保証、原子力管理)、原子力強化プロジェクト、島根原子力発電所(品質保証部、総務課、技術部、保修部、発電部、廃止措置・環境管理部)
監査項目	AP1:業務管理のしくみの改善 AP2:業務運営の改善 AP3:意識面の改善
確認日	平成30年 4月9~12日
確認結果	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>再発防止対策について、手順書・AP等に基づき確実に実施しており、定期的な有効性評価も適切に実施していることを確認した。</p>

戻る

(33)

【参考】これまでの再発防止の取り組み経緯

